



道徳通信5 『みんなでとんだ』で考える最高のクラス

○教材について

運動会の学年種目の「大縄とび」で1位を目指して練習していた2年1組は、「縄が怖いと言っていた矢部ちゃんを入れずに跳ぶか、入れて全員で跳ぶかで悩めます。運動会前日の長時間に及ぶ話し合いで賛否両論が出される中、最終的に「みんなでとぶ」ことを選択し、勝ち負けではない本当の友情を得ます。

運動会という行事は生徒にとって身近なものであり、作中に登場する生徒の意見はどれも共感できます。自分も2年1組の生徒になったかのような気持ちで入り込むことができたかと思います。また自分のクラスについて考える時間になるので、今日学んだことを学校生活へ活かして欲しいと思います。

○先生から（決して正解ではありません…道徳に正解はないのですから…）

真の友情は、相手が同性であっても異性であっても同様に。相手の成長と幸せを願い、互いに励まし合い協力を惜しまない対等な関係です。中学生の時期は、人と人の触れ合いや協力し合うことの大切さを実感できる一方で、自分本位であったり、排他的になったりする生徒もいます。また、自分が傷つくことを恐れ、他者に対して無批判に同調したり、最初から一定の距離を取った関係しか持たなかったりする生徒も少なくないです。

しかし一方で、互いに心を許し合える友達を真剣に求め、友情を必要とする心が高まってくるときでもあります。自分のことだけでなく、自分の属する集団全体を思いやることで、本当の友情を、そして最高のクラスに必要な「あったか〜い」をどんどん生み出してほしいです。

みんなで（クラスや学年）協力して、楽しんで何かをすることは大切だと分かった。

“みんなは一人のために
一人はみんなのために”

この教材を読んで、一人のためにみんなが助け合い、苦手な人にも優しく挑戦を与えてくれるクラスはいいなと思った。

これからは自分だけの満足ではなく、自分を含めみんなが満足できる考え方をしていきたい。

今まで仲間と自分とを比べて、自分より頑張っている人がいるから、自分も頑張りたい。でも、自分一人では頑張れないから、みんなと一緒に頑張りたい。

クラスというチームは、運動が苦手とか勉強が苦手とかの人がいるからこそ成り立っているわけだから、苦手だからその人だけ抜くとかはクラスじゃないと思った。人の苦手を認め合い、助け合えたらいいと思う。